



# 子ども家庭支援事業について

① あせらず ② ゆっくり ③ みんなで ④ きっと ⑤ ずっと つながる

学校福祉部 子ども支援課【あゆみ】 家庭支援課【きずな】

## 1 子ども家庭支援事業の状況

### (1) 支援対象児童生徒数(人)

	R5年度 (4月当初)			R5年度 (9月末新規・再対応)			R5年度 (9月末) 支援実施 総数
	学 校 依 頼	保 護 者 依 頼	計	学 校 依 頼	保 護 者 依 頼	計	
はじめの一步 (児童生徒への対応)	21	11	30※	28	9	34※	64
ささえて一步 (家庭問題への対応)	11	1	11※	14	4	16※	27
いっしょに一步 (学校生活への対応)	1	6	7	9	6	12※	19
計	21※	11※	31※	34※	10※	40※	71※

(注1)「※」…重複する場合があるため、計とは一致しない。下の(3)の表も同様。

(注2)「再対応」…昨年度までに一旦支援対象から外れたが、本年度になって再度対応している。

### (2) 家庭訪問等の実績(回)

	R4年度 実施した支援(年間)		R5年度(9月末) 実施した支援	
学校や関連機関と行ったケース会議等の回数	132		328	
家庭訪問で直接支援した回数	364	703	111	246
公民館や学校等で直接支援した回数	339		135	
保護者と面談した回数	235		223	

### (3) 改善等が図られた児童生徒の状況(人)

児童生徒の状況		R4年度 (年間)		R5年度 (9月末)	
登校できた	相談室等に通うことができた	40 ※	12	47	6
	相談室等に定期的に通うことができた		13		7
	教室に通うことができた		8		16
	教室に定期的に通うことができた		12		18
適応指導教室やフリースクールとつながった	適応指導教室等に通うことができた	20	6	11	4
	適応指導教室等に定期的に通うことができた		14		7
生活の改善(安定)が見られた	精神的な安定や向上が見られた	30 ※	23	17	11
	生活習慣が改善された		5		3
	親子関係等の家庭環境が改善された		13		8
新たに医療とつながったり、検査が行えたりした		5		12	
新たに関係機関とつながった		4		3	

## 2 支援事例

### (1)子ども支援課と家庭支援課が連携した事例

#### はじめの一步、ささえて一步(中学生 A 家庭支援)

- ・保護者の強い接触拒否で行政の支援も拒んでいたため、登校できていなかったAが、福祉的支援により生活が改善し、登校できるようになった。しかし、今後も継続的な支援が必要な世帯である。

### (2)保健師が関わった事例

#### いっしょに一步(小学生 B 本人支援)

- ・医療的ケアが必要な児童に、看護師が常駐してBのケアを行っている。
- ・「あゆみ」の保健師が、看護師がいない緊急時に学校でケアを行うなど柔軟に対応することによって、Bが安心して登校することにつながっている。
- ・「あゆみ」の保健師も、他のケースに対応していることもあり、いつでもケアに行くことができるわけではないが、今後も対応できる範囲でBの安心安全のために支援を続けていく。

### (3)公認心理師が関わった事例

#### いっしょに一步(小学生 C 本人支援)

- ・夏休み明けに心配な状況がわかり、緊急にカウンセリングが必要になったが、スクールカウンセラーは、勤務日ではなく緊急での対応は難しい状況であったので、「あゆみ」の公認心理師が都合をつけて、Cのカウンセリングを行った。
- ・保健師同様公認心理師も他のケースに対応していることが多い上に、公認心理師は他課と兼務であるために、いつでも緊急時に対応できるわけではない。こうした課題もあるが、今後も公認心理師の専門性を生かして、できる限りの支援を行っていく。

## 3 成果と課題

上記の事例にあるように、学校福祉部が新設されたことにより、子ども支援課・家庭支援課が学校や関係機関と連携してケースに対応することで、これまで、福祉的支援が必要で、学校だけでは対応が難しかったケースにも支援することが可能となり、登校につながり始めているケースもあることは大きな成果といえることができる。

また、学校福祉部に保健師や公認心理師、社会福祉士などの専門性の高い職員が配置されていることで、対応が困難な家庭に適切な支援の手を差し伸べることができており、これも、今までの学校だけでは対応が難しかった家庭への支援として、成果をあげている。

しかし、福祉的支援を必要としている家庭は、関係機関につないで登校支援を行えば、すべて解決するわけではなく、対象児童生徒の成育歴等によって、一度登校につながっても、再度不登校になったり、接触を拒否されたりすることもあり、より一層、保護者や児童生徒と良い関係を築き、息の長い支援を継続していく必要がある。

さらに、専門性の高い職員のニーズが高まっており、支援が必要なすべての家庭に専門性の高い支援を継続的に行っていくためには、さらなる体制の強化が必要である